

**第六期長期策定委員会 傍聴者アンケート**  
**第5回実施分（平成30年11月7日開催） 自由記載欄**  
**【傍聴者 10名】**

**○ 今回の策定委員会で印象に残った、または興味のある議論や課題がありましたら記入してください。 ※傍聴者7名記載**

・市教委が言っている「小中一貫教育」が、今も文科でいう小中一貫教育である小中連携をやっている武蔵野市なのに、本当に先生の多忙を解消していく方策になりうるのか、武蔵野市の子どもたちの成長と発達を保障していくものなのか、この4年間にわたっても、今日の部局説明を聞いても全くわかりませんでした。ますます疑問を持ち、単なる建て替え問題であれば、老朽している学校の建て替えを、人口増加を見すえて、普通に普通の学校を建替えることが先決ではないかと思いました。

・小中一貫教育の方が良いという前提の議論にならないようにしてほしいです。小中一貫はしないという議論はないのでしょうか。小中の私学志向をますます増長させる政策になっていると思います。連携と一体型を問うのではなく、小中一貫の是非を検討すべきです。

・「小中一貫」に関する担当（教育部）の説明がはっきりしないこと、正しくないことが、議論を混乱させているように思える。検討委員会が2年も検討したにも係らず、『実施の是非』を決定できなかったことは提案が否決された（＝廃案になった）ということである。

・小中一貫：建て替えが20～30年かかることのことだったが、これまでの議論の中では、もっとかかるとなっていた。100年校舎はどうする？

・施設一体型9年の教育的メリットがあると教育部長から説明があったが、最近公表されたつくば市の報告書から、それは読み取れなかった。小中一貫でも分離型の方が評価が高かった。

・武蔵野市で小中一貫を導入する背景について、「学校の魅力」と説明があったが、平成28年、当時の教育長の説明とまったく異なる。後の市議会では統廃合にふれる発言もあった（教育長）。

・つくば市の報告書の中で子どもたちのサポートされてる感について、一体型になることで低くなる。この原因として先生が忙しくなることで見まもられてないということが挙げられています。現在、市民科という新しいものを考えています。とても面白いと思いますが、先生の負担から子どもたちへの影響が心配です。

・武蔵野市の市立中学校への進学率が55%と説明があった。小中9年間のうち転校する子がどれだけいるか。それを考えると、9年間一貫のメリットがあるとしても、どれだけの子がそれを受けられるか。

・小学校区の意味の中でコミュニティ構想に関連づけられたが、コミュニティ構想の中で小学校区とコミュニティ区を関連づけられてはいないし、現状のコミュニティ区割けも異なっている。

・市内の雑木林は積極的にうんぬんとあったが、2008年から現在まで放置林となっています。実際、樹木の計画は、成長を考えると長計で扱うべき。森の保全は何十年先を見越して行う。日常メンテとはまったくちがう。

・「住み、学び、働き、遊び…」の言葉である必要はないが、自治基本条例の中でも市民の定義が同様になっていることから取り込んでほしい。閉鎖的なコミュニティ協議会へも影響を与えてほしい。

・「変わっていくことを足をひっぱらない」武蔵野市の特徴というが、地域の現場ではそんなことはない。

<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中一貫教育について、3年間の検討を経て、小中一貫教育検討委員会でも検討した結論として、(施設一体型の)小中一貫教育を進めようという結論が出せなかったのなら、長期計画に含めるのは理にかなわないのではないかと感じた。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料4-1の「子ども…」は「子どもが希望をもてる…」という形ではどうですか? 「全世代」は「誰もが住みたい、遊びにきたい」ではどうですか?</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども、若者向けの目標</li> <li>・市民という概念の拡張性。まちづくりの未来の姿が楽しみです。</li> </ul>

**○ その他、ご意見・ご感想などありましたら記入してください。 ※傍聴者6名記載**

<ul style="list-style-type: none"> <li>・「平和」の文言がないのが気になりましたが、もうすでに11月24日武蔵野平和の日が位置づけられているので、ということで良いのでしょうか。安心して住み学び遊ぶ楽しむことができるためには平和を発信していく武蔵野市であることを六長でもアピールしていくことが大事ではないかと思いました。</li> <li>・最後の意見を聞きながら、策定委員会の議論もよくわからなくなりました。学識委員と市民委員の発言力の差が大きく、市民委員の方が気の毒な感じがしました。一市民の傍聴者として委員の先生方の言葉が難しいです。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・議論はおもしろいです。もっと長計について議論してください。目指すべき姿の「安心して暮らし続けられる…」は、基本目標の①将来、②全世代、③未来あるの3つは同じ目標で、前向きとは言えません。希望のもてる、10年計画を立ててほしいと思います。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中一貫教育＝小中一貫学校(義務教育学校)という言語の使い方は、長計討議の段階から改めて頂きたい。</li> <li>・本来、小中学校(公教育)が一貫した教育体系の下にあるべきで、否定するものではない。イコール「小中一貫学校」にするから、おかしくなる。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「目指すべき姿」の「べき」が入っている理由が分からない。</li> <li>・「まちの魅力×向上」は結果であって、どうのこうのできるものなのだろうか?</li> <li>・「無電柱化の更なる推進」無電柱化はすごくお金がかかると聞いています。公共施設等…でこれからやってくる財政難にむけて知恵をしぼろうとしているときに簡単に「推進」と書いて大丈夫か?</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・主要な課題・論点(案)の教育部に関する課題に児童数の増加への対応(教室不足、学区など)が、この先10年大きな課題ではないかと思う。</li> <li>・校舎改築について、千川小、大野田小は2095年、2105年までは使うよう(2倍以上の予算を使っているのだから)に考えられているのでしょうかね。 →20~30年で全校建替えのような発言があったので大変気になりました。</li> <li>・基本目標について、「子ども」と発言された場面で感じましたが、「子ども」とは何才までを前提しているのでしょうか。20才より小さい年齢とみたいと思いました。自治体として、0才から20(18)才の子どもの成長を支えることが求められるのではないのでしょうか。</li> <li>・基本目標の「多様性」で気になったのですが、これはマイノリティの人を指しているのでしょうか。すべての人にかかる言葉と、とらえたいですね。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・JR沿線の街が各々活発化しています。その中で魅力ある街でいつづける工夫が必要だと思います。</li> </ul>

(※文字及び文章はアンケートに記入されていた原文のまま記載しています。)